

## IT戦略の今後の在り方に関する専門調査会（第5回） 委員意見概要

- 「認証」や「本人確認」は重要な基盤でありこれらの言葉をデジタル技術基盤にいれるべき。
- デジタル技術基盤を体系化するため例えばネットワーク・機器とプラットフォームといったレイヤ別にすべきではないか。
- 産業・地域活性化はゴールではなく構造改革と新産業創出に向けた議論のスタートとし、どう改革に結びつけるが重要。
- （国際関係で）時代はリーダーシップや競争力と並んで協調や共生も重要となってきた。
- サプライヤ視点でなく生活者・企業の満足度を高めることを目標にするためマーケットサーベイやアンケート調査といった意識調査が重要。
- ITにより国民が便利で安心・安全な社会を作り、アジアの国々があこがれる日本型モデルをつくりあげることが大事。
- ITの進化を見ると、個人の行動、履歴、GPSデータ等の生活記録を収集するライフログを用いた社会像が見えてきている。もの一方で、それに基づく個人情報保護、プライバシー保護などへの対処方針も必要。
- ダイバーシティ（多様性）の表現が2015年の社会イメージのどこかに必要。
- 無駄排除など後ろ向きな表現は控え、知の共有などいい面をとらえる必要。
- 各論よりむしろ最先端のIT社会の「世界のショーウィンドウ」といったワクワク感と訴求力ある言葉を中心に据えるべき。
- 2015年の社会をまず据え、現在と対比すべき。例えば、日経新聞も2020年の姿として大幅な人口減を書いたが、少子高齢化、パブリックセクターの肥大化等、暗いイメージを前提に国は何をすべきか取捨選択し、ITの貢献方法を検討すべき。
- ITの箱整備に反対であり、国民が自主的に生きられる目指すべき社会イメージをまず出し、それをITがどう支えるかが重要と認識。
- 鍵は「人」であり、技術だけで問題解決不可能。事業開発力、創造力、国際展開力を持った人材育成をすべし。
- 優秀な技術者養成も大事だが、普通の人には技術は黒子であり、空気のように気づかずに技術を使っているのが理想。電子行政の場合でも、家に機器を備えるより、行政窓口の人が機器を操作してワンストップで手続きを行える方がよい。
- 技術者とユーザーとの間のコミュニケーションを図るための翻訳が必要。匿名性技術など、なぜその技術が良いものなのかわかりやすく説明すべし。
- 世界でリーダーシップをとるためにはIT自身でなく、産業構造を新しい方向に

向けるときに IT がどう貢献できるかが大事。

- 今の国の優先分野に IT 入らない。重点にしたいなら「こうすればこうなる」を明確に出すべき。
- 戦略はメリハリが効いたものであるべきであり、コンピューターをやっている人が昔から使っている「デジタル」で何ができるかと言われても、当たり前前で迫力なし。
- 2015 年で切っていることが問題。それより前にやることも検討すべし。
- 高齢化、環境問題など現時点で見えた課題についてどこまで達成するかの目標をまず議論し、デジタル技術がどのように貢献できるかの戦略を考える方が生産的。